

公益財団法人国際文化フォーラム

# 2015(平成 27)年度 事業報告及び附属明細書



2015 年度も当初計画していた事業を概ね順調に実施することができました。2015 年の 3 月の第 14 回理事会にてご承認いただきました事業計画にはなく、新規に取り組みました事業として、韓国で日本語を学んでいる高校生 32 名と引率教師 3 名の計 35 名を 11 月に招聘しました。本事業は、日韓文化交流基金から公募のあった JENESYS2.0「韓国との間の招聘派遣事業」に国際フレンドシップ協会と共催で急遽応募し、採用になったものです。

以下、主要事業について報告いたします

#### ◆『好朋友』10 周年

(公 1-1 中国における日本語教育の促進)

第二外国語としての日本語教育の推進をめざし大連教育学院との共同プロジェクトで完成させた日本語教材『好朋友』を使っている中国各地の教師計約 100 名に参加していただき、10 年間の歩みを振り返り、日本語授業での更なる使用を参加者間で考える研修を 10 月に大連で実施しました。

#### ◆くりっくにつぼんの読者の拡大

(公 1-2 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにつぼん」の運営)

「くりっくにつぼん」の読者拡大のため、中国最大の SNS の一つである新浪微博(シランウェイボー)に〈点击日本〉(ディエンジーリーベン)ページを立ち上げました。

記事の紹介をはじめ、日本の学生が作った漢俳(中国語の俳句)、『好朋友』の漫画に出てくる擬態語・擬声語の紹介などを発信しています。韓国の日本語教師ネットワークである JTA(Japanese Teachers Assosiation)のウェブサイトでも授業案を紹介してもらいました。また、英語圏の教師約 900 人を対象に、記事とその活用法を紹介する「くりっくメルマガ」(月 1 回発信)を創刊しました。

また、「くりっくにつぼん」の活用法を共有する教師向けワークショップとしては、オーストラリア、韓国に加えて、初めてフィリピンで、国際交流基金マニラ事務所と共催で実施しました。

#### ◆8 言語の教師に「めやす」が定着

(公 2-1「外国語学習のめやす」の活用の促進)

##### 55 名のめやすマスターの活躍

2015 年度は、19 名が夏と春のめやすマスター研修に参加し、2013 年度からの 3 年間で 8 言語、計 55 名のマスターが誕生しました。3 月には、今期の研修修了者に第 1-2 期の修了者をあわせて、計 44 名のマスターが参加する会合を開催し、マスターとして何をしていくべきか、何ができるのかを検討してもらいました。

言語の枠を超えて外国語教育を考える企画や、高大連携で外国語教育の発展をめざす取り組みなど、さまざまな企画が生まれ、マスターが自主的に活動する環境ができたことは大きな成果です。TJF は今後もマスターたちをサポートしていきます。

また、無料配付版、市販版あわせて 8000 部を印刷した『外国語学習のめやす』も 2015 年度末で 300 部を残すのみとなり、2016 年度中に配付を終了する予定です。

### ロシア語教育用のめやす完成

ロシア語教育における高大連携をめざした研究活動に取り組んできた大阪大学の林田理恵教授、横井幸子講師とともに、日本の高校のロシア語教育発展をめざすプロジェクトに取り組みました。「外国語学習のめやす ロシア語教育用」を完成させるとともに、8 月にはロシアの高校日本語教師 6 名を招聘し、日本の高校ロシア語教師と合同ワークショップを実施しました。

### ◆21 世紀型の能力育成のための教員・生徒向けのプログラム

(公 2-2 21 世紀型の外国語教育推進のための教師研修)

#### 主体的・能動的な学びを促す教育方法についての研修

當作靖彦カリフォルニア大学サンディエゴ校教授を講師に迎え、主体的・能動的な学習が重視されるようになった社会的背景についてのレクチャーや、知識や技能に加えて必要とされる思考・判断や表現、課題解決や協働などの能力をどのように形成していくかを踏まえた、評価基準について考えるワークショップなどを東京、大阪、北海道、沖縄で 7 回開催し、合計 500 名の参加を得ました。沖縄県教育委員会と共催の研修は 4 年連続となり、今回はすべての県立学校から外国語と国語の教員が参加しました。

今年度新たに、沖縄と大阪で校長向けの講演に協力しました。研修に参加した校長のリクエストを受けて沖縄県立向陽高校の国際文科の 1 年生 80 名を対象とした講演会も実現しました。

「新しい資質・能力の育成やアクティブラーニングなど、多忙な現場を無視して上から押しつけられている感が否めなかったが、なぜ必要なのか納得できた。同僚や生徒に説明することばをもてた」「知識以外の能力をどう評価していくのか切実な課題だったが、ループリックなどを知り自信がもてた」など、参加者からはポジティブな感想を得ています。

(公 3-3 交流事業に関する活動)

#### 社会人と学校をつなぐ CM ワークショップの試み

社会人の知恵やスキルと学校現場をつなぐ試みのひとつとして、CM プランナーを講師に迎え、CM づくりの手法を取り入れながら映像を制作するワークショップを教員向けに 2 回、中高校生向けに 2 校で実施しました。

主体的・能動的な学習が推奨されるのにとめない、外国語の授業に限らず、プレゼンテーションや映像づくりなど発信型の活動として、教室でも取り入れやすいとの評価を得ています。

### ◆日中、日韓で互いのことばを学ぶ中高校生が交流

(公 3-1 中高校生の交流プログラムの実施)

#### 日韓の中高校生ダンス交流、夏休みに実施

2015 年度 4 回めとなる日韓の中高校生ダンス交流プログラムは、これまでの 12 月から、夏休みに時期を移して実施しました。募集にあたっては、ダンス発表の様子やプログラム中の活動がわかるよう、動画を作成し、ポスターや実施要項から直接その動画を見られるよう工夫しました。これにより、日韓ともに応募者が増え、最終的に定員を日韓双方 2 人ずつ増やして、計 36 名(1 名は辞退)で実施しました。

今回ははじめて発表会だけでなく、事前の練習から TBS の取材が入り、生徒たちの葛藤や気持ちの変化などがニュースとして放送されました。

本プログラムの目標の一つである「さまざまな価値観をもった人たちがいることを知り、一緒になにかをすることに興味、関心を広げていること」が達成できるよう、今後も活動の工夫をしていきます。

### 中国の高校生、日本の高校生活を体験

2014 年度に続き、中国で日本語を学ぶ高校生 18 名を日本に招きました。昨年度は、日本各地から中国語を学ぶ高校生を公募し合宿型のプログラムにしましたが、実質的な交流時間が1日半と短かったことを反省し、今回は横浜市立みなど総合高校の協力を得て、まるまる 3 日間の高校生活を体験し、週末には校外で交流しました。中国の高校生 1 人に 1 人のバディ(お世話係)が基本的につき、授業への参加、昼食、放課後になるまで一緒に過ごしてもらいました。

### ◆日韓と日中で互いのことばの教育を進める校長が交流

(公 3-2 隣語教育に取り組む日中・日韓の校長交流プログラム)

#### 身近な生活を体験できるプログラムづくり(日中交流)

中国で日本語教育に熱心に取り組む学校のネットワークである、中国中等日本語課程設置校工作研究会の会員校約 40 校のうち、2014 年度は 20 名、今回は会員校の校長、副校長、校長助理計 18 名を 12 月 15 日～20 日の 6 日間日本に招聘しました。公立の高等学校 2 校で中国語の授業の見学・中国語学習者との交流をしたほか、教育委員会の担当者や校長の教育方針を聞き、日本の教育についての理解を深めてもらいました。

普段の生活を体験してもらうことを目的に、あえて専用バスを用意せず、地下鉄、路線バスなど公共交通機関を利用する、都内で温泉体験をしてもらうなどの工夫をしました。また、期間中には、中国語を開設している日本の高等学校の管理職との交流会を開催しました。

### 教育現場の見学で相互理解を進める(日韓交流)

東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院と共催で取り組んだ日韓校長交流プログラムでは、東京と神奈川の 6 名の校長・教師が 8 月 11 日から 14 日まで大田・ソウルを訪問しました。忠南大学、大田市教育委員会、韓国教育部を訪問し、教育関係者と意見交換するとともに、大田外国語学校では日本語学習者と交流する機会を設けました。

日韓、日中とも、学校間交流につなげるためには、フォローアップが必要です。TJF は、互いの言語教育および交流プログラムの情報を継続的に提供するなど、ネットワークを継続するための工夫をしていきます。

### ◆わやわやとラジオのコラボにチャレンジ

(公 4-1 TJF の事業の広報)

より多くの方々に TJF のミッションに共感し、事業をサポートしていただくために、見る事業報告『CoReCa』の発行、さまざまなことばや文化に触れるイベント「りんごをかじろう」の実施、Facebook やメルマガの運営を行いました。

2015 年度 1 月より、メールマガジン「わやわや」に食をテーマとした「おいしい話あります！」を新設し、インターネットラジオ「ごちそう Remix」と連動して、新たなチャンネルでのサポーター獲得を試みました。

## 2015 年度実施事業の一覧及び各事業の報告

### 公 1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業

1. 中国における日本語教育の促進(定期事業)
2. 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営(定期事業)
3. 日本語教育・日本理解事業に関する活動(定期事業)

### 公 2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業

1. 「外国語学習のめやす」の活用の促進(定期事業)
2. 21 世紀型の外国語教育推進のための教師研修(定期事業)
3. 隣語講座の開催(定期事業)
4. 外国語教育・多文化理解事業に関する活動(定期事業)

### 公 3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業

1. 中高校生の交流プログラムの実施(定期事業)
2. 隣語教育に取り組む日中・日韓の高等学校校長交流プログラムの実施(定期事業)
3. 交流事業に関する活動(定期事業)

### 公 4 TJF の事業の広報(定期事業)

事業名	実施時期	実施場所	事業内容	関係機関/団体
公1 海外の小中高校における日本語教育と日本の文化についての理解を促進する事業				26,789,553 円 (内、公1共通費用*12,482,944円)
1 中国における日本語教育の促進 (定期事業)  <b>決算額 3,472,549円 (予算額 3,943,490円)</b>	①8月  ②10月	①湖南省 長沙市  ②遼寧省 大連市	①昨年度に引き続き、中等日本語課程設置校工作研究会の年次大会の開催にあわせて、研究会と共催で会員校の日本語教師を対象に研修を実施した。研修は、講義とワークショップの2部構成とし、参加した教師が、中国の課程標準(学習指導要領に相当)で、外国語学習で獲得できる力の一つとしてあげられている「文化的素養」とは何か、文化的素養を高めるためには、日本語の授業でどのような活動に取り組めばいいのかを考えた。  ②TJFと大連教育学院が共同で取り組んだ日本語教育推進プロジェクト10周年の記念行事を学院と共催で2日にわたり実施した。初日は関係者とともにこの10年間を振り返り、日本語教育発展に貢献のあった、学校、教師を表彰し、今後のさらなる研鑽を奨励した。午後には市内の日本語学習者150名が参加する学習成果発表会が行われた。2日めは、大連の日本語教師と中国各地で、本プロジェクトの成果である第二外国語用日本語教材『好朋友』を使っている教師約100名が参加する研修を実施。あらためて『好朋友』が日本語教育で何をめざしているのかを考えるとともに、大連市で長年同教材を使っている教師の経験を他地域の教師と共有した。	①共催: 中等日本語課程設置校工作研究会 助成:(公財) 東芝国際交流財団 (公財) 三菱UFJ国際財団  ②共催: 大連教育学院 助成:(公財) 三菱UFJ国際財団
2 日本の文化と人びと紹介サイト「くりっくにっぽん」の運営 (定期事業)  <b>決算額:8,815,001円 (予算額11,105,200円)</b>  減少理由:2015年度に取材した記事の翻訳が次年度に。動画が必要な記事が予定より少なかったため	通年	TJFサイト、オーストラリア、韓国、フィリピンほか	中国の大手SNSの新浪微博に「点击日本」を開設し、くりっくにっぽんの記事紹介などを配信し、英語圏の日本語教師向けには、メルマガ「Click Nippon News」を月2回の定期配信をすることで、読者増をめざした。また、韓国では中高校日本語教師ネットワークJTAと連携して「くりっくにっぽん」を活用した授業案の開発およびJTAウェブサイト上の「くりっくにっぽん」コーナーに記事とともに掲載した。  日本語教師向けワークショップは、国際交流基金マニラ文化センターと共催で「くりっくにっぽん」のワークショップを実施した。オーストラリアのビクトリア州の日本語教師会、前述のJTAが企画した「くりっくにっぽん」のワークショップや実践報告会に協力した。  国内では、昨年度に引き続き、東京都立青梅総合高校の総合学習の時間に、グアムに修学旅行に行く2年生を対象に特別講義「日本を発信すること」を行った。ウェブのコンテンツとしては、「My Way Your Way」で「妖怪」と「聖地」巡礼をテーマにした記事を掲載した。	○フィリピンでのワークショップ 共催:国際交流基金マニラ文化センター
3 日本語教育・日本理解事業に関する活動 (定期事業)  <b>決算額:2,019,059円 (予算額 1,703,360円)</b>	通年	東京、フランスなど	日本語教育学会春季大会(5月、東京)、ヨーロッパ日本語教師会シンポジウム(8月、フランス)をはじめ、日本語教育関連の大会・研究会・会合に参加し、情報収集とTJF事業の広報に務めた。	

公2 日本の小中高校における外国語教育と多様な文化についての理解を促進する事業				37,341,136円 (内、公2共通費用*20,272,297円)	
1	<p>「外国語学習のめやす」の活用の促進 (定期事業)</p> <p><b>決算額:11,149,716円 (予算額 12,926,200円)</b></p> <p>減少理由:めやすマスター研修の会場として公共施設を利用したため</p>	<p>①8月、3月ほか</p> <p>②、③通年</p>	<p>①千葉、東京、大阪ほか</p> <p>②東京、大阪、富山ほか</p> <p>③TJFウェブサイト</p>	<p>①「外国語学習のめやすマスターティーチャー」養成研修 2015年度も、中国語と韓国語、日本語、英語、ロシア語、ドイツ語、フランス語、スペイン語の8言語の担当教員や研究者19名を対象に、夏(千葉)と春(神奈川)の2回合宿形式で実施した。神奈川で実施した春の研修にあわせて、過去2回の研修修了者25名を招聘し、今年度の修了者と合わせて計44名が参加する会合を開催した。3回のマスターが集合した会合では、マスターティーチャーとしてのこれまでの活動を総括するとともに、今後の活動の方向性と具体的な計画について検討してもらった。この結果をベースにTJFは2016年度もマスターの活動をサポートしていく予定である。また、年間を通して、研修を修了したマスターティーチャーがコーディネーターを務めるワークショップを東京と名古屋で実施した。</p> <p>②「外国語教育のめやすーロシア語教育用ー」の制作と日露教師交流 3回のマスター研修に参加したロシア語教師計6名と連携し、「外国語学習のめやすーロシア語教育用ー」(日本語ロシア語併記)を作成し冊子にまとめて発行した。日本の高校のロシア語教育とロシアの日本語教育で同冊子を活用してもらうことをめざし、8月にロシアの日本語教師6名を日露青年交流センターと共催で招聘した。滞在期間中に2日間の日露教師合同ワークショップを実施し、日本の高校ロシア語教師は9名が参加した。また、日本のロシア語教育とロシアの日本語教育の促進につなげることを目的に、日本のロシア語教育取組み校10校、ロシア(モスクワとノヴォシビルスク)の日本語教育取組み校5校を訪問し現状把握に努めるとともに、ロシアの7校を対象に日本(語)関連図書を寄贈した。</p> <p>③めやすウェブサイトの運営 ①のマスターティーチャー養成研修の参加者が作成した授業プランを中心に、めやすを活用した授業案を順次掲載した。掲載を継続するほか、上記②のロシア語版をPDF形式で公開した。</p>	<p>①の夏合宿と②の事業 共催:大阪大学林田理恵科研プロジェクト、横井幸子科研プロジェクトと共催</p> <p>②のうちロシアの日本語教師招聘 共催:日露青年交流センター 助成:(一社)尚友倶楽部 日本語教育実施校への図書寄贈 助成:(一社)尚友倶楽部</p>
2	<p>21世紀型の外国語教育推進のための教師研修 (定期事業)</p> <p><b>決算額:2,680,718円 (予算額 3,907,600円)</b></p> <p>減少理由:共催、協力での実施が増加したことにより、会場費や謝金の支出がなくなった。また、オンライン研修は実施せず。</p>	<p>5月、10月、11月</p>	<p>大阪、沖縄、北海道ほか</p>	<p>當作靖彦カリフォルニア大学サンディエゴ校教授を講師に迎え、「グローバル時代のキャリア形成、ライフデザインにつながる教育」、「評価のパラダイムシフト」をテーマにしたレクチャーや、「学習を促進する評価のデザイン」についてのワークショップを小中高校大学の教員や学校幹部向けに実施した。TJFが主催するレクチャー&amp;ワークショップを東京、大阪、札幌で開催したほか、沖縄県教育委員会と4年目となる研修を共催し、すべての県立学校の外国語と国語の教員が参加した。また、大阪府教育センターでの府立学校長研修、指導主事対象の研修、沖縄県高等学校長協会定例研究協議会での講演の実施に協力した。合計7回の講演・研修には、計約500名が参加した。このほか、沖縄県高等学校長協会定例研究協議会に参加した校長の要請により、沖縄県立向陽高等学校国際文科の1年生80名を対象とした講演会も実現した。「急速な情報化社会で具体的にどのようなことがおこっているのか、それがどのように教育に影響を与えているのか、どういう能力を育成していけばいいのか、そのための評価はどうあるべきか豊富なデータをもとに示されたので納得できた」など、参加者の満足度は概ね高く、2016年度はすでに10回のレクチャー、ワークショップの開催が決定している。</p>	<p>共催:沖縄県教育委員会、国際教育活動ネットワークREX-NET(大阪)、北海道大学国際本部留学生センター 協力:高等学校中国語教育研究会 北海道支部、国際教育活動ネットワークREX-NET(札幌)、実用英語教育研究会(SPELT)、北海道高等学校英語教育研究会</p>

3	隣語講座の開催 (定期事業)  <b>決算額:292,827 (予算額 479,000円)</b>	①9月、 2016年2 月  ②6月  ③通年	東京	①隣語への関心を高めることを目的に、中高生向けの韓国語(9月)と中国語の講座(2月)をそれぞれ1日ずつ実施した。  ②東京都高等学校総合学科教育研究会と共催で、都内の総合学科に通う高校生、その保護者、教師と一緒に参加できる講演会「世界の言語と文化を知ろう」を開催した。第1回は、世界の韓流と日本の韓流から隣国を知ることをテーマとした  ③2012年から実施している駐日韓国文化院世宗学堂と共催の「中高生のための韓国語講座」を実施したほか、拓殖大学第一高等学校韓国語講座にも継続して協力した。	①隣語講座(韓国語、中国語) 共催:文京区青少年プラザb-lab  ②講演会「世界の言語と文化を知ろう」 共催:東京都高等学校総合学科教育研究会 助成:東京韓国教育院 協力:東京都立杉並総合高等学校PTA  ③韓国語講座 共催:駐日韓国文化院世宗学堂
4	外国語教育・多文化理解事業に関する活動 (定期事業)  <b>決算額:2,945,578円(予算額 2,188,386円)</b>  増加理由:期中に日韓文化交流基金が公募したJENESYS2.0「韓国との間の招聘派遣事業」に応募し実施することになったことと、TJFが日韓の文部科学大臣表彰を受賞し、授賞式に参加のため2名が韓国に出張することになったため。	通年	日本国内 各地	高等学校中国語教育研究会全国大会、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク全国研修、朝鮮語教育学会、一般社団法人日本外国語教育推進機構(JACTFL)など、国内の中国語や韓国語をはじめとする外国語教育関連の研究会や会合等に参加し、情報収集とTJF事業の広報に務めた。  また、日中友好協会主催の「全日本中国語スピーチコンテスト」に国際文化フォーラム賞と副賞を贈呈したほか、神戸東洋医療学院孔子課堂主催の「漢語橋世界中生中国語コンテスト」の予選大会や、高等学校中国語教育研究会主催の全国大会および各支部の学習発表会、人民中国雑誌社が主催するPanda杯全日本青年作文コンクール等に対して後援、協力を行った。  (公財)日韓文化交流基金の公募事業JENESYS2.0「韓国との間の招聘派遣事業」に(一社)国際フレンドシップ協会と共催で応募し、韓国で日本語を学んでいる高校生32名と引率教師3名の計35名を招聘した。	○韓国の高校生招聘事業 共催:(一社)国際フレンドシップ協会 協力:韓国高等学校日本語教育研究会 輸送協力:ANA
<b>公3 国内外の小中高校生間と教育関係者間の交流を促進する事業</b>					<b>35,431,615円 (内、公3共通費用*19,940,054円)</b>
1	中高校生の交流プログラムの実施 (定期事業)  <b>決算額:7,317,342円 (予算額 8,841,046円)</b>  減少理由:②の招聘生徒が2名減ったため。学校の協力を得たことにより、会場費や移動交通費も減ったため	①8月  ②12月	①韓国ソウル市ほか  ②神奈川県ほか	①日韓のこばを学ぶ中高生交流プログラム2015「SEOULでダンス・ダンス・ダンス」 韓国語を学ぶ日本の中高生18名と日本語を学ぶ韓国の中高生18名を公募で決定し、ソウルでK-POPダンスをテーマにした交流を行った。日韓の中高生は、5日間合宿生活をしながら、チームに分かれてダンスの練習に取り組み、最後に発表会で成果を披露した。発表会には韓国の生徒の家族や友人、日本の高校の校長先生など約100名がゲストとして来場しダンスの審査に加わった。また、発表の様子を日本の参加生徒の家族や友人向けにインターネットを通じて同時中継し、インターネット投票にも参加してもらった。  ②日中の中高校生交流プログラム「りんご交流」 日本語教育に取り組む中高校の校長のネットワークである中国中等日本語課程設置校工作研究会の会員校から生徒18名を日本に招聘した。5泊6日間の招聘期間中は横浜市立みなと総合高等学校の協力を得て、日本の生徒とペアを組んで一緒に授業を受けたり部活に参加したりと学校生活を体験した。また、日本の生徒と学校周辺に出かけて横浜の街を見学したり、ホームステイ体験を通して交流を行った。	①の事業 共催:(財)秀林文化財団 助成:(公財)双日国際交流財団、(公財)日韓文化交流基金 協力:秀林外語専門学校、高等学校韓国朝鮮語教育ネットワーク、韓国日本語教育研究会、国際交流基金ソウル日本文化センター 輸送協力:ANA 旅行取扱:ジェイエッチシー株式会社  ②の事業 共催:中国中等日本語課程設置校工作研究会 助成:(公財)三菱UFJ国際財団、漢語橋基金 輸送協力:ANA

2	<p>隣語教育に取り組む日中・日韓の高等学校校長交流プログラムの実施 (定期事業)</p> <p>決算額:5,223,085円 (予算額 5,593,400円)</p>	<p>①12月</p> <p>②8月</p>	<p>①東京ほか</p> <p>②韓国ソウル市、大田市</p>	<p>①日中校長交流 昨年度に続き、中国中等日本語課程設置校工作研究会と協力し、中国で日本語教育を実施している(導入予定も含む)中高校の管理職19名を日本に招聘し、日本の中国語教育実施校を訪問するとともに、江戸東京博物館見学や都内での温泉体験などを通し、日本の社会や文化に対する理解を深めてもらった。また、日本の中高校の校長をはじめとする教育関係者との意見交換会を実施することで、互いのことばの教育を進める管理職同士がつながり、学校間の交流を考えるきっかけになった。</p> <p>②日韓校長交流 東京と神奈川の韓国教育院の協力を得て、二つの地域で韓国語教育を実施している高校の管理職5名と韓国語教師1名を韓国ソウルおよび大田に3泊4日間派遣した。大田では日本語教育を実施する大田外国語学校を訪問し、日本語学科の生徒5名とペアになって授業の様子や学校の寮施設など校内を見学しながら日本語で交流した。また、忠南大学(大田)の教育学科の教員、大田市教育委員会、韓国教育部を訪問し、日韓双方の教育の現状や今後の方向性などを共有するとともに意見交換を行った。国際交流基金ソウル日本文化センターと共催実施した、日本語教育実施校の管理職および日本語教師との交流会では、それぞれが自分たちの学校をアピールし、今後の交流の実現可能性について探った。</p>	<p>①の事業 助成:(公財)三菱UFJ国際財団、(公財)東華教育文化交流財団、漢語橋基金</p> <p>②の事業 共催:東京韓国教育院、神奈川韓国総合教育院 共催:国際交流基金ソウル日本文化センター(交流会のみ)</p>
3	<p>交流事業に関する活動 (定期事業)</p> <p>決算額:2,951,134円 (予算額 3,354,000円)</p>	<p>通年</p>	<p>東京、北海道ほか</p>	<p>CMプランナーを講師に迎え、CMづくりの手法を取り入れたプロジェクト型のワークショップを教員向けに東京で2回実施したほか、中高校の要請により、生徒向けのワークショップを2校で実施した。北海道滝川西高校では、スーパーグローバルハイスクール・アソシエイト指定校として取り組んでいる、商業科と英語科の教科横断と産学連携の実践の一環として、情報ビジネス科3年生80人が滝川市に東南アジア圏からの観光客を呼び込むための英語CMづくりに取り組んだ。また、田園調布学園中等部・高等部では、創立90周年記念行事のオルセースクールミュージアム(オルセー美術館公認リマスターアート数十点を展示し、学園を美術館にする企画)に向けて、企画メンバーの生徒たちが、来てほしいターゲットに向けてどんな魅力を伝えたいか、どのようにしたら伝わるか探究しながらCMを制作し、学校のホームページで発信した。そのほか、情報活用型プロジェクト学習をテーマに小中高校、大学の教員を対象としたレクチャー&amp;ワークショップも実施した。</p> <p>年間を通じて、アクティブラーニング、21世紀型の能力育成、国際理解教育などに関連するセミナー、公開授業などに参加して、情報収集やネットワーキングを行った。</p>	
<p>公4 TJFの広報活動</p>					<p>28,422,882円 (内、公4共通費用*19,761,530円)</p>
1	<p>TJFの事業の広報 (定期事業)</p> <p>決算額:8,661,352円 (予算額 12,344,750円)</p> <p>減少理由:2015年度の事業報告の取材開始が次年度になったこと、メルマガの記事のアウトソーシングが減ったこと、りんごをかじろうの開催回数が減ったため</p>	<p>通年</p>	<p>東京ほか</p>	<p>8月末に発行した事業報告書『CoReCa』では、現在話題の「アクティブラーニング」を特集に取り上げたことで、多くの反響が寄せられた。月2回発行しているメールマガジン「おやわや」では、12月に始めた郷土料理研究家・青木ゆり子氏執筆のシリーズ「おいしい話あります！」(月1回)に連動して、インターネットラジオの配信を開始した。また引き続き、ウェブサイト、Facebookを通じてTJFの日々の活動の様子を発信した。</p> <p>個人的な隣語との出会いのエピソードとともにTJFの事業に寄付をいただく「りんご記念日キャンペーン」、また著名な方がたからメッセージと寄付をいただく「りんご記念日キャンペーン応援団」も昨年度に引き続いて実施した。さまざまな国のことばや文化について楽しく学ぶイベント「りんごをかじろう」は、ベトナム語事典編纂、タイの民間信仰、日本のお笑い、中国結びなどをテーマに実施した。</p>	<p>○りんごをかじろう 協力:武蔵野大学出版会(ベトナム語) 助成:漢語橋基金(中国結び)</p>

\*各公益目的事業に係る費用(給料手当、福利厚生費、消耗品、賃貸料など)